学校だより

1月号

令和６年（2024年）
１月９日

横浜市立洋光台第二小学校

人として感じるこころをなくさずに

学校長　野村　　光

令和６年、新年を迎えました。今年一年が充実し、子どもたちが明日もまた通いたくなる学校をめざし教職員一同、力を合わせて努力していく所存です。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

年明け早々には、能登半島地震が、また、翌日には羽田での航空機事故と、大きな災害や事故が立て続けに起きてしまいました。希望に満ちた新年のスタートにさまざまなものをなくされた人を思うと心が痛くなりました。被災されたすべての方々に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興をお祈りいたします。

今年の子どもたちの冬休みは、HMF 振替休日と１月の三連休を含め、いつもより少しだけ長い休みでした。コロナ五類移行に伴い行動制限もなくなり、有意義な休みを送れたのではないでしょうか。

そんな、冬休みのある日のことです。私の自宅近くの路地から「カン、カン」と乾いた音が聞こえてきました。窓から覗くと羽根つきをして遊んでいる子どもたちの姿が見えました。「正月遊び」をする子どもの姿を見たのは本当に久しぶりのことでした。私は金沢区で生まれ育ちました。子どもの頃の正月の原風景として、空を見あげれば様々な形の凧が泳いでいたことを覚えています。近くの乙舳(おっとも)海岸へ出かけ、友だちと程よい距離をおき、糸が絡まないように慎重に凧上げをしたことを思い出します。

時代が変わり子どもたちの冬の過ごし方も、随分と変化したように思います。世の中の生活様式も変わりました。お年玉を電子マネーで受け取り、寺院での賽銭も電子決済で納めることが可能な時代です。また、ある都市のホテルでは、チェックイン時は殆どの接客をロボットが行っているというニュースも見ました。このニュースを伝えているのも、AI アナウンサーでした。やがて、ロボットたちが人間社会の中で普通に溶け込みながら仕事をする日も、遠い未来のことではないことを感じました。学校でも、４月からは家庭と学校の連絡手段として、現行のメール配信に変わる仕組みが始まります。(詳細は後日改めてお知らせします。) ただ、どんなに世の中が進んで便利になっても、教師がロボットに代わる時代だけは来てほしくはないなと、夢中で羽根つきに興じる子どもたちを見ながら思いました。今年もあたたかく、心の通った子どもたちの学びの場を目指したいと思います。そして、今の AI にはできない、相手の気持ちに共感できる人になってほしいと願っています。